

(7) 透明度

1986年7月15日と1987年1月7日に区域内5地点で透明度板(φ 30)を使用して透明度を測定した。

結果は図16に示した。

リーフの外側の方が湾内に比較して夏季(7月)で約3倍、冬季(1月)で約2~4倍高かった。また冬季の測定値は湾口から湾奥にかけて順次低下を示した。

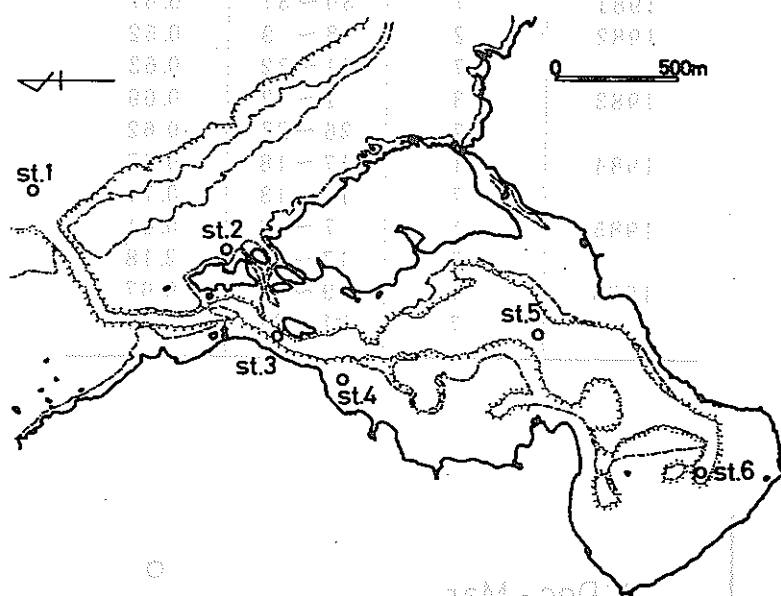


図16 川平湾内定点における透明度(m)

要 約

- (1) ヒメジャコの生殖巣部重量調査は5月から8月まで実施した。生殖巣部重量比率(GWR)は5月より6月が少し減少し、7月は $41.2 \pm 4.9\%$ と上昇したが、8月には $21.9 \pm 9.3\%$ と大きく下降した。今年度は成熟が遅く、かつ産卵期の短い変動的な年であった。
- (2) ヒメジャコの成長量調査は、定点の6個体の穿穴長径値を継続測定した。前年度 $8.50 \sim 10.30 \text{ cm}$ ($\bar{x} = 9.48 \pm 0.58 \text{ cm}$) のものが $8.60 \sim 10.45 \text{ cm}$ ($\bar{x} = 9.69 \pm 0.60 \text{ cm}$) となり、1年間の平均成長量は 0.21 cm であった。昨年度のそれは 0.41 cm であった。
- (3) 1980年に埋め込み法で放流した区では生残数には変動がなかった。成長は 8 cm を越える個体が多くなってきたが、干出時間の長い場所や琉球石灰岩では悪かった。1年間の平均成長量は 0.59 cm であり、昨年度の 0.80 cm に比べて低くなった。
- (4) シャコガイの種苗生産に関する試験は、ヒメジャコについては6月20日から9月8日までの間に7回の採卵をおこない、生産された 1 mm 稚貝は 94×10^3 個体であった。中間育成では6月29日に採卵した区で受精後105日目の10月13日に 4 mm 稚貝が出現した。ヒレジャコ、